

平成 22 年度

薬学共用試験実施に向けて

(受験学生向け配布用資料)

平成 22 年 4 月 9 日 発行

特定非営利活動法人薬学共用試験センター

薬学共用試験について

平成 18 年度より始まった新しい 6 年制の薬学教育制度では、長期実務実習が課されています。長期実務実習は、従来実施されてきた「見学型」の実習とは大きく異なった「参加型」実習であり、病院・薬局などの医療の現場で、それぞれ 11 週間にわたり薬剤師として行う責任ある実務を直接学習することになります。すなわち薬剤師国家試験の受験資格を得るためには、学生諸君は卒業前の実務実習において、薬剤師の指導・監督の下に、薬剤師としての実践能力を十分に修得しておくことが求められています。しかしながら薬剤師資格を持たない諸君が医療現場で実務実習生として、薬剤師と同様な調剤行為をすることは法的に問題があります。そこで諸君が適切な指導の下にその実務を学習するために、各大学は、諸君が「学内で必要かつ十分な基礎的知識や技能・態度などが培われてきたことを保証する」必要があります。

全国薬科大学長・薬学部長会議は、諸君が長期実務実習に参加するための必要かつ十分な基礎的知識・技能・態度を有していることを、責任を持って確認するために、長期実務実習に参加する直前に「薬学共用試験」を実施することを決め、平成 18 年 10 月、薬学共用試験の実施組織として特定非営利活動法人（NPO 法人）薬学共用試験センター（以下、薬学共用試験センターと略）を発足させました。

本資料は、平成 22 年度の薬学共用試験を受験する予定の、新制度 4 年次学生に向けた説明資料です。

学生諸君は、この試験の趣旨と内容を理解し、準備されることを願います。

なお、薬学共用試験（CBT と OSCE）は薬剤師国家試験とは目的が異なるものであることを十分に理解してください。

目 次

1. 薬学共用試験実施の概要	3
1.1 試験実施の時期	3
1.2 対象学年	4
1.3 追・再試験	4
1.4 受験申請	4
1.5 受験料および納付方法	5
1.6 薬学共用試験受験票の交付	5
1.7 出題形式と出題問題	5
1) CBT	
2) OSCE	
1.8 試験成績の通知	7
1.9 有効期限	7
1.10 個人成績の守秘	7
2. 合格基準	7
2.1 CBT の合格基準	7
2.2 OSCE の合格基準	7
3. 注意事項	8
3.1 遵守事項	8
4. CBT 実施要項	8
4.1 実施スケジュール	8
4.2 CBT 試験内容と試験時間割	9
4.3 CBT 実施にあたっての注意事項	9
5. OSCE 実施要項	10
5.1 OSCE の実施	10
6. CBT 体験受験	10
6.1 CBT 体験受験の概要	10
6.2 CBT 体験受験までの流れ	11

1. 薬学共用試験実施の概要

1) 薬学共用試験のあり方

- (1) 薬学共用試験は、全国薬科大学長・薬学部長会議のもとに設置された薬学共用試験センター（以下、「センター」と略）が実施します。
- (2) 薬学共用試験は「知識および問題解決能力を評価する客観試験」(Computer-Based Testing : CBT) と「技能・態度を評価する客観的臨床能力試験」(Objective Structured Clinical Examination : OSCE) に分けられます。
- (3) 実務実習に参加する前に、CBT と OSCE を受験し、設定された一定の基準を上回る成績を修めることを、諸君が実務実習に参加するための必須要件とします。各大学は、薬学共用試験合格をもって学生の基礎的知識や技能・態度が基準に到達していることを保証するものとします。
- (4) 薬学共用試験では、日頃の学習で習得した知識、実務実習事前学習で習得した技能や態度を試験します。

2) 知識および問題解決能力の評価方法 (CBT)

- (1) 知識の評価は、多肢選択形式 (Multiple Choice Question : MCQ) の客観試験で実施します。
- (2) 試験は 3 ゾーンに分けて実施します。諸君はすべてのゾーンを受験することが必要です。
- (3) 出題範囲は、薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠します。ただし△印を付した SB0s については出題しないものとします。(日本薬学会編「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を参考にしてください。)
- (4) 諸君には共通の問題を出題するのではなく、個々に異なった問題をランダムに出題しますが、受験生ごとの難易度は同じにします。
- (5) 試験問題の配信、成績の集計等は、センターが用意するコンピューターシステムを利用します。

3) 技能・態度の評価方法 (OSCE)

- (1) 技能・態度の評価は、5 領域 6 課題からなる実地試験を実施します。
- (2) 各課題に対し、評価者 2 名による評価を行います。評価は評価基準を設定し、これに基づく細目評価を行います。また全体の流れや円滑さ、医療過誤に結びつくような手技に関しては概略評価で評価します。

1.1 試験実施の時期

薬学共用試験はその性質上、5年次での長期実務実習に参加する直前に受験することが望ましいため、以下の期間内で各大学が設定した日時に実施します。

(1) 本試験 平成22年12月1日～平成23年1月31日

(2) 追・再試験 平成23年2月20日～3月20日

1.2 対象学年

平成22年度の対象は、6年制課程の4、5年次学生で平成23年度に長期実務実習を履修する学生とします。

1.3 追・再試験

追試験：CBT本試験とOSCE本試験の、いずれかもしくは両方を、病気等のやむを得ない事由により受験できなかった場合、追試験を実施します。追試験の日程は再試験の日程と同一とし、追試験の追・再試験は実施しません。

再試験：本試験の成績が、センター提示の合格基準に達していない場合、再試験を実施します。再試験は当該年度につき一回限りとします。OSCEの再試験において実施する課題は本試験において不合格となった課題のみを対象とし、その領域の類型課題により実施します。

1.4 受験申請

本試験までの受験登録、受験申請について時系列で示します。ただし詳細な日程は各大学で異なりますので、注意してください。

- ・平成22年4月10日 本試験受験予定者の人数と名簿の提出締切
- ・平成22年5月31日 本試験受験料の各大学からの納付締切（一括納付）
受験料は一括納付しますので、受験学生諸君は各大学の指示に従って、受験料を大学に納付してください。
- ・平成22年10月8日～10月29日
大学は本試験受験者を確定し、受験者・非受験者をセンターに報告します。（非受験者には受験料を12月上旬までに返金します。また受験確定後は受験料を返金しません。）
- ・平成22年11月上旬 本試験受験票を大学に発送します。
- ・平成22年12月1日～平成23年1月31日 本試験実施
合否は、CBT・OSCE 共に一週間以内に大学から通知されます。
- ・平成23年2月20日～3月20日 追・再試験実施
合否は、CBT・OSCE 共に一週間以内に大学から通知さ

れます。

- ・平成 23 年 3 月 18 日 再試験受験料の納付締切
受験学生諸君は、各大学で決められた指示に従って、
受験料を大学に納付してください。
- ・平成 23 年 4 月 10 日まで
大学は薬学共用試験合格者の人数と合格基準をセンターに連絡し、ウェブサイト等で公表します。

1.5 受験料および納付方法

- (1) 本試験の受験料は一人当たり 25,000 円（含消費税）とします。
- (2) 再試験の受験料は CBT、OSCE それぞれにつき 12,500 円（含消費税）とします。
なお追試験については改めて受験料を徴収することはありません。
- (3) 各大学は受験料を一括してセンターの指定する口座に振り込むこととします。
- (4) 各大学からの本試験受験料の納付締切は、平成 22 年 5 月 31 日とします。
- (5) 受験料を納付したにもかかわらず、平成 22 年 10 月 29 日までに本試験の受験を行わないと申し出のあった学生（非受験者）には、平成 22 年 12 月上旬までに支払った受験料を返還します。
- (6) (5) の場合を除き、未受験の場合に、受験料は返還しません。
- (7) 各大学からの再試験の受験料の納付締切は、平成 23 年 3 月 18 日とします。

1.6 薬学共用試験受験票の交付

CBT・OSCE 共通の薬学共用試験受験票を平成 22 年 11 月上旬に大学に送付します。この受験票は本試験および追・再試験を通して使用しますので大切に保管して下さい。

1.7 出題形式と出題問題

1) CBT の出題形式と出題問題

- (1) 問題は五者択一問題とし、合計 310 問を出題します。
- (2) 試験はゾーン 1~3 の 3 ゾーンに分けて実施し、試験時間は各ゾーン 2 時間とします。
- (3) 各ゾーンの出題内容は、薬学教育モデル・コアカリキュラムおよび実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した中項目で分類し、その内容は以下に示す通りです。

出題分野	薬学教育モデル・コアカリキュラム	出題数	ゾーン
ヒューマニズム・ イントロダクション	A、B	10問	3
物理系薬学	C1-C3	30問	1
化学系薬学	C4-C7, C17 (2)	40問	1
生物系薬学	C8-C10, C 17 (3)	35問	1
健康と環境	C11-C12	40問	3
薬と疾病	C13(1), (2), (3), C14	55問	2
	C13 (1), (4), (5), C16	35問	2
	C15	15問	2
薬学と社会	C17(1), (4), C18	20問	3
実務実習事前学習	事前学習（実務実習モデル・コアカリキュラム）	30問	3

- ・薬学教育モデル・コアカリキュラム、実務実習モデル・コアカリキュラムにおいて△印をつけた SBOs は CBT の出題範囲とはしません。

2) OSCE の出題形式と課題

5 領域 6 課題について実地試験を実施し、1 課題の試験時間は閲覧時間 1~2 分、実技時間 5 分とします。

領域	課題
1. 患者・来局者対応	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局での患者対応 ・病棟での初回面談 ・来局者対応
2. 薬剤の調製 (1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・計量調剤 (散剤) ・計量調剤 (水剤) ・計量調剤 (軟膏剤) ・計数調剤
3. 調剤鑑査	<ul style="list-style-type: none"> ・調剤薬鑑査
4. 無菌操作の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いと手袋の着脱 ・注射剤混合
5. 情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局での薬剤交付 ・病棟での服薬指導 ・一般用医薬品の情報提供 ・疑義照会

1.8 試験成績の通知

センターは試験結果の一覧表を大学に送付します。

受験生諸君には、大学から合否結果のみが通知されます。1.10にあるように、個人に成績は通知されません。

1.9 有効期限

薬学共用試験の合格資格の有効期限は薬学共用試験（本試験）が行われた年度の次の年度（平成23年度）の一年間とします。ただし特別な事由により年度内に実習が開始できなくなった場合に限り、有効期間は学生個人に対して原則として1回1年間に限りに延長します。

特別な事由としては、事故や病気、経済的理由による一時的な勉学の中断、自然災害等により実習が行えなくなった場合などがあげられます。留年や海外留学は特別な事由としては認められませんので留意してください。

1.10 個人成績の守秘

センターおよび大学は個人の成績について一切公表しません。

2. 合格基準

2.1 CBTの合格基準

CBTは正答率60%以上を合格とします（310問中186問以上の正解）。本試験で、この基準に達しない者には再試験を課します。追・再試験の合格基準は本試験と同じとします。

2.2 OSCEの合格基準

OSCEは、課題ごとに、細目評価で評価者2名の平均点が70%以上、かつ概略評価で評価者2名の合計点が5以上を合格とします。OSCEの再試験は、不合格となった課題のみを対象として、その領域の類型課題により実施します。追・再試験の合格基準は本試験と同じとします。

3. 注意事項

3.1 遵守事項

薬学共用試験は参加各大学が共同して自主的に運営・実施する試験であり、日本の薬学教育の充実・発展に資する目的で実施されます。したがって、以下の3項目を遵守してください。

- ◎ 試験問題の内容を他に漏洩・公開しないこと
(OSCEにおいて事前に学生に提示される「学習・評価項目」と「医薬品リスト」を除く)
- ◎ 問題・課題に関するメモやコピーなどはとらないこと
(試験実施に必要な場合を除く)
- ◎ 大学は学生の成績データを厳格に管理し、漏洩・公開しないこと

遵守事項に反した行為を行った大学、あるいは以下の項目のいずれかに該当するとセンターが認めた大学については、薬学共用試験への参加の適否に関して慎重な検討を行うことといたします。

- 薬学共用試験の信用を低下させるおそれのある大学
- 薬学共用試験の適正な運用を妨げるおそれのある大学
- その他、センターが不適當であると認めた大学

4. CBT 実施要項

4.1 実施スケジュール

(1) 試験とその後のスケジュール

- (a) 平成22年12月1日～平成23年1月31日
CBT本試験の実施
- (b) 平成22年12月3日～平成23年2月5日
CBT本試験結果の通知
- (c) 平成23年2月7日～2月12日
CBT追・再試験の受験申請
- (d) 平成23年2月20日～3月20日
CBT追・再試験の実施
- (e) 平成23年2月27日～3月25日
CBT追・再試験結果の通知

4.2 CBT 試験内容と試験時間割

試験内容と標準的な試験時間割は、以下の通りです。

時間	内容	備考
8:50	試験室開錠、受験生入室開始	
9:00	受験生入室終了	座席指定
9:00~9:30	開始準備・注意事項の伝達・ チュートリアル	ゾーン1パスワードの開示
9:30~11:30	ゾーン1	
11:30~12:20	昼食	試験室の施錠
12:20	試験室開錠、受験生入室開始	
12:25	受験生入室終了	
12:25~12:30	開始準備	ゾーン2パスワードの開示
12:30~14:30	ゾーン2	
14:30~14:50	休憩	試験室の施錠
14:50	試験室開錠、受験生入室開始	
14:55	受験生入室終了	
14:55~15:00	開始準備	ゾーン3パスワードの開示
15:00~17:00	ゾーン3	
17:00~	終了処理	

4.3 CBT 実施にあたっての注意事項

- (1) 携帯電話、飲食物、教科書類、参考書、辞書、写真機能付き時計など、受験に必要な物品は室内に持ち込まず、机の上にも一切置いてはいけません。
- (2) ひざかけ、座布団、ハンカチ、マスク、目薬の使用などは、不正行為等の防止に留意して使用を認めず。ティッシュペーパーについては、袋から取り出して中身のみを机に置くようにしてください。

5. OSCE 実施要項

5.1 OSCE の実施

1) 実施日程

平成 22 年 12 月 1 日～平成 23 年 1 月 31 日 OSCE 本試験の実施

平成 23 年 2 月 20 日～3 月 20 日 OSCE 追・再試験の実施

2) 課題

(1) 1.7 の 2) に示す表の 5 領域、6 課題を実施します。

(2) 実施課題は、上記 5 領域を必ず含み、薬剤の調製は 2 課題を設け、合計 6 とします。

3) 実施形式

(1) 実施日は原則 2 日以内とします。複数日にわたって実施する場合、同一課題は 1 日で実施します。

6. CBT 体験受験

6.1 CBT 体験受験の概要

(1) CBT 体験受験には 3 つの目的があります。

- ・ 第一は、本格実施に先立って、本格実施と同様の要領で諸君が「体験的に」受験する制度であり、CBT 受験の練習となり、CBT 受験になれることができます。また、体験受験では本格実施と共通のプール問題が 310 問中の 70%程度出題されるため、諸君は体験受験時の自分の位置を客観的に理解することができます。
- ・ 第二は、大学として、本格実施前のフルスケールの CBT 受験トライアルが可能になることです。これにより、各大学は CBT の運用を熟知でき、本試験でのトラブルを未然に防ぐことができます。
- ・ 第三は、体験受験を通じて 310 問中の 30%程度の新作問題や再検討問題の正答率を評価できることです。これにより、毎年、本試験に使用する新作問題を増やすことが可能となります。

(2) CBT 体験受験の申し込みと実施時期

CBT 体験受験までの流れは 6.2 を参照してください。受験料は本試験の受験申請と同様の手続きで徴収します。(但し、CBT 体験受験では非受験の場合も受験料は返金しません。)

(3) 受験料

CBT 体験受験の受験料は 5,000 円です。

(4) CBT 体験受験の受験資格

CBT 体験受験を受けることのできる学生は、その年度に薬学共用試験を受験

する予定の学生のみとします。3 年次生等は受けられませんので留意してください。

6.2 CBT 体験受験までの流れ

- ・平成 22 年 3 月下旬 受験予定者人数の調査依頼（センター）
- ・平成 22 年 4 月 10 日 受験予定者の人数と名簿の提出締切
- ・平成 22 年 4 月中旬 受験料の請求書発送（センター）
- ・平成 22 年 4 月末日 日程の最終決定（センター）
モニター員の派遣先を大学に連絡（センター）
- ・平成 22 年 6 月 20 日～30 日 大学は受験者を確定し、受験者・非受験者をセンターに報告
- ・平成 22 年 7 月上旬 受験票を大学に発送（センター）
- ・平成 22 年 7 月中旬 派遣モニター員と本部要員を大学へ連絡（センター）
- ・平成 22 年 7 月 21 日～9 月 17 日 体験受験実施
結果は試験後 1 週間以内に大学に報告（センター）
- ・平成 22 年 9 月末日まで 全国平均点等を報告（センター）

* 体験受験の出題内容についての補足説明

- 1) CBT 本試験と同様に諸君には 310 問（ゾーン 1：105 問、ゾーン 2：105 問、ゾーン 3：100 問）出題されます。
- 2) この 310 問は「体験受験問題」70%程度と「検証問題」30%程度から成ります。但し、両者は問題解答画面上では区別できず、出題順もランダムです。
- 3) 「体験受験問題」が 70%の場合、217 問は全受験生に共通です。また、各ゾーン、分野別の出題数の内訳は、本試験のそれと同じです。
- 4) CBT 体験受験の採点は「体験受験問題」のみを対象として行い、これを学生にフィードバックします。即ち、217 点満点で採点されます。
- 5) 「検証問題」が 30%の場合は、難易度、問題としての適正等の評価が終わっていない問題から、各学生に対して 93 問ずつランダムに出題されます。
- 6) 「検証問題」は採点対象とせず、難易度、適正等のデータを取ることでより次年度以降の CBT 出題問題とします。
- 7) 「検証問題」は、受験生毎の難易度に差がある場合、および問題内容が一部重複する可能性があります。CBT 問題の質を維持するための検証を兼ねておりますので、ご理解ください。